

伊勢物語 東下り

教科書
p.65
p.67

1 語句 次の語句の本文中での意味として最も

適当なものを、それぞれ選べ。 〈各2点〉

(1) 感ふ (巻・3)

ア あわてる イ 戸惑う ウ さまよう

(2) 文 (巻・2)

ア 学問 イ 手紙 ウ 書物

うつつ (巻・3)

ア 現実 イ まぼろし ウ 夢

わぶ (巻・14)

ア 謝罪する イ 落ちぶれる

ウ 嘆く

2 語句 次の空欄に入るよう、傍線部の意味を答へよ。 〈各2点〉

(1) いとおもしろく咲きたり。 (巻・6)

(2) たいそう 「 」咲いている。

すずろなる日を見る (巻・12)

五月の 「 」目に遭う

五月のつごもりに、 (巻・5)

五月の 「 」に、

みんなものわびしくて、 (巻・15)

人々は皆 「 」て、

語句 次の漢字の読みを現代仮名遣いで答えよ。

唐衣 (巻・9)

修行者 (巻・13)

（各1点）

文法の確認

(3)	(2)	(1)

文法	/12	重要語	/18	文脈	/51	段落構成	/8	主題	/11	合計	/100
1 文法 次の各文における傍線部の助詞「ば」の用法をそれぞれ選べ。											
(1) 富士の山を見れば、五月のつごもりに、雪いと白う降れり。 (巻・5)											
(2) 京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。 (巻・2)											
2 文法 次の空欄に適當な語句を入れて、助詞の表を完成させよ。											
（各1点）											
3 文法 次の文における傍線部の「し」を文法的に説明せよ。											
唐衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしそ思ふ (巻・9)											
（各2点）											

し	ば	助詞	種類
副助詞	接続助詞	接続	未然形
種々の語	已然形	意味・用法 (現代語訳)	1 順接の仮定条件 (…ならば／…たら／…ば)

- 2 順接の確定条件
- (1) 原因・理由 (a)
 - (2) 偶然条件 (b)
 - (3) 恒時条件 (c)
- （特に訳さない）

(1)
(2)

重要語の確認

(2) (1) よ。	（各1点）
唐衣 (巻・9)	
修行者 (巻・13)	

文脈を理解する

1 **(釋讀)** 「身をえうなきものに思ひなして」(巻・1)を現代語訳せよ。

〈2点〉

2

文法 次の各文における傍線部の格助詞の用法をそれぞれ選べ。

〈各1点〉

住むべき国求めに。(巻・2)

一人二人して行きけり。(巻・3)

八橋といふ所にいたりぬ。(巻・4)

ある人のいはく、(巻・7)

旅の心をよめ。(巻・8)

ア 手段・方法 イ 動作を共にする相手 ウ 帰着点
工 主格 オ 動作の目的 力 連体修飾格

- | |
|-----|
| (1) |
| (2) |
| (3) |
| (4) |
| (5) |

3 「下りゐて」(巻・6)について、

(1) 文法 「下りる」の活用の種類と活用形を答えよ。

〈完答1点〉

(2) 語句 「下りる」とはどうのような動作か。最も適当なものを、次から選べ。

- ア 馬から降りて座る イ 都からやつて来てここにいる
ウ 牛車から降りて座る 工 船から降りて座る

第一段落

4 和歌 「かきつばたといふ五文字を句の上に据ゑて」(巻・7)の

ようにして歌を詠むことを何というか。漢字二字で答えよ。

〈2点〉

5

和歌 「唐衣」(巻・9)の歌に用いられている次の修辞を抜き出せ。

〈完答各2点〉

枕詞 「 」 導き出す語 「 」
序詞 「 」 導き出す語 「 」
掛詞 「 」 「 」 「 」
「 」 「 」 「 」 「 」 「 」

(4) 「唐衣」の縁語 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」
(3) 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」
(2) 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」
(1) 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」

6 文法 次の各文における傍線部の助詞の説明として最も適当なものを、それぞれ選べ。

〈各1点〉

(1) いと暗う細きに、(巻・12)

(2) 見ることと思ふに、(巻・12)

ア 接続助詞(単純な接続) イ 格助詞(添加)
ウ 接続助詞(逆接の確定条件) 工 格助詞(原因・理由)

- | |
|-----|
| (1) |
| (2) |

第二段落

第一段落

(1) 文法 「いかでかいます」(巻・13)について、

「いますする」の敬語の種類と敬意の対象を答えよ。

〈完答2点〉

(2) 課題 「いかでかいます」を現代語訳せよ。

〈2点〉

8*
内容
「那人」(衆・1)とは、男にとってどのような人か。

答えよ。

2
点

10 「時知らぬ…」(太六・7)の歌について、
(1) 文法 係助詞と結びの語を抜き出せ。

完答2点

第二段落

9 「駿河なる」(卷・3) の歌について

(1) 和歌　序詞を抜き出し、それが導き出す語を答えよ。

各2点

序詞

導き出す語

(2) 内容――夢と対応している言葉を抜き出せ。

(3) 痣識 「夢にも人にあはぬなりけり」にはどのような意味が込

められているか。最も適当なものを、次から選べ。

ア　夢であなたに会わるのは、私を思ってくれないからだ。
イ　夢で私に会わるのは、あなたを思っていないからだ。
ウ　夢でお互いに会わるのは、お互に思っていないからだ。
エ　夢であなたに会わるのは、あなたを思っていないからだ。

第四段落

第三段落

(2) 内容
富士の山に対して「時知らぬ山」と驚嘆しているのはなぜか。二十字以内で答えよ。
△3点

指示 「い」(表・9)とは、具体的にはどこか。本文中から一語で抜き出せ。

2
点

文法 次の各文の傍線部の助詞の説明として最も適当なものを
それぞれ選べ。
（各1点）

〈各1点〉

12 語句 塩尻（秦・10）はどのような形をしているか。答えよ。

文法 次の各文の傍線部の助詞の説明として最も適当なものを
それぞれ選べ。

各1点

(1) 「はや舟に乗れ。日も暮れぬ。」と言ふに、
(未: 15)

(3) 水の上に遊びつつ (文・2)
 さる折しも、(文・1)

イ 格助詞（引用）

(1)

(2)

(3)

(2)

(3)

「名にし負はば」(文七・5)を現代語訳せよ。

(2点)

第四段落	第三段落	第二段落	第一段落
〔g〕川 下総の国	武藏の国 駿河の国	駿河の国 〔d〕の山	三河の国 八橋
〔g〕川 下総の国	富士の山	駿河の国 〔d〕の山	〔d〕の山 八橋

16 段落構成をまとめる

次の空欄に適当な言葉を入れよ。

（各1点）

昔、男がいた。自分は必要のない者だと思い込んで、「^a〔 〕にはいるまい。^b〔 〕に住むのにふさわしい国を求めに行こう。」と考え、友人と旅立つた。三河の国、八橋に至り、「かきつばた」を^c〔 〕にして都の妻を恋しく思う歌を詠んだ。

駿河の国^d〔 〕の山で、京へと向かう修行者に出会った。男は修行者に、都に残してきた女性のことを思う歌を詠み、^e〔 〕をして託した。

富士の山は夏にもかかわらず、^f〔 〕を預いていた。男は、その山がまるで季節をわきまえぬかのようだと歌に詠んだ。

武藏の国と下総の国^g〔 〕川まで来た。水の上で遊ぶ鳥の名を尋ねると、渡し守は^h〔 〕という名であるという。男は都に残してきた人の安否を問い合わせる歌で、鳥に呼びかけた。

- 15 内容 「こと問はむ」(文七・5)とは、何と問おうというのか。本文中の歌の中から二字以内で抜き出せ。

（2点）

10

17 主題を考える

「東下り」の主題について、

- (1) 「すみだ川」のほとりで男たちが「わび合」(文六・14) つたのはなぜか。最も適当なものを、次から選べ。

(4点)

- ア 「すみだ川」を見たことで故郷の川を思い出し、寂しくなつたから。
 イ 川幅が大きいので、無事に川を渡ることができるか不安になつたから。

- ウ これから旅路で、何が起ころかわからないと恐ろしくなつたから。

- エ 京を出てからの時間と距離を思つて、遠くに来た

ことがつらくなつたから。

- (2) 「唐衣…」「駿河なる…」「名にし負はば…」の三首に共通して詠まれている「男」の心情として最も適当なものを、次から選べ。

- ア 京に残してきた女性を恨めしく思う心情。

- イ 京に残してきた女性を恋しく思う心情。

- ウ 京に残してきた女性を不満に思う心情。

(4点)

- (3) 「舟ござりて泣きにけり」(文七・7)とあるが、「男」が歌を詠み、皆で泣くことになつてしまつたきっかけは何か。答えよ。

(3点)